



カケハシ・プロジェクト（米国） 若手研究者招へい（日米協会 VSJ プログラム）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

「日米協会 VSJ（Visit & Study Japan Grant Program 2024）プログラム^{（注）}」は、一般社団法人日米協会（AJS）の研究助成事業と外務省の「カケハシ・プロジェクト」が連携して実施しているプログラムであり日本文化をより深く理解すること、日米両方で経験と知見を得ることから、日米間の人的交流を促進することを主な目的として実施されました。

注：「VSJ プログラム（Visit & Study Japan Grant Program 2024）」とは、一般社団法人日米協会（AJS）の100周年記念事業の一環として助成される4つのプログラムのうちの1つです。この助成事業は、米国の修士・博士課程に在籍する学生を日本に招き、日本及び米国間の関係に関する調査・研究を奨励し、研究の知的水準の向上に一層寄与することを目的としています。そのため、本選考に合格した参加者は、様々な分野で米国における日本理解を促進するために不可欠な存在となることが期待されています。カケハシ・プロジェクトでは、本プログラムの訪日支援、特に日本における航空運賃・一部宿泊費・通学費の支援を行います。

【参加者】米国の大学生 合計1名

【訪問地】東京都、埼玉県、広島県

【日程】

■ 招へいプログラム

12月13日（土曜日）	成田国際空港より入国 【来日時オリエンテーション】
12月14日（日曜日）	【視察】靖国神社、神保町、秋葉原
12月15日（月曜日）	【視察】昭和館、北の丸公園
12月16日（火曜日）	【意見交換】一般社団法人 日米協会 【視察】渋谷
12月17日（水曜日）	【視察】巣鴨拘置所跡地 石碑、上野公園
12月18日（木曜日）	【視察】埼玉ピースミュージアム（埼玉県平和資料館）
12月19日（金曜日）	【視察】市ヶ谷記念館、将棋会館
12月20日（土曜日）	東京都から広島県へ移動 【視察】広島平和記念資料館
12月21日（日曜日）	【視察】大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）、てつのくじら館（海上自衛隊呉資料館） 広島県から東京都へ移動

12月22日（月曜日） 【視察】東京国立博物館
 12月23日（火曜日） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画（アクション・プラン）発表
 （一般社団法人 日米協会）
 成田国際空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
2024年12月14日【視察】靖国神社	2024年12月19日【視察】市ヶ谷記念館
	
2024年12月20日【視察】広島平和記念資料館	2024年12月23日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

日本滞在中、東京裁判が日本人の記憶の中でどのように位置づけられているのかを検証するため、歴史的に価値のある様々な公共施設を訪れました。ですが、驚いたことに、第二次世界大戦にまつわる日本各地の記念碑や史跡には、東京裁判に関する情報がほとんど登場しないことに気づきました。特に、埼玉ピースミュージアムや広島平和記念資料館を含む平和の保存を目的として設立された資料館では、東京裁判や戦後の国際刑事司法についてほとんど言及されていませんでした。

最も興味深かったのは、巣鴨拘置所跡地の石碑と市ヶ谷記念館でした。巣鴨拘置所跡地の石碑は、現在の池袋サンシャインシティ近くにある旧巣鴨拘置所跡地に設置されていますが、コンクリートに囲まれた公園の中にひっそりと佇み、碑文は風化し、上部はハトのフンで覆われていました。一方、市ヶ谷台ツアーでは、東京裁判が行われた記念館の見学が含まれているものの、裁判についての言及は「ここでこういうことが起こった」といった簡単な説明に留まっていました。

これら二つの東京裁判に関する説明の「不在」は、日本の人々の戦争の記憶の中でも特異な形の記憶形成や忘却のあり方を示しているように思います。実際、呉市の大和ミュージアムやてつのくじら館（海上自衛隊呉史料館）、東京国立博物館など、他に訪れた施設では、日本の戦時中の「恥ずべき」要素も含め、戦時・戦後の歴史の一部として説明され、一定の位置づけがなされていました。

また、日米協会での報告会を通じて得た聴衆の意見は、日本のメディアが東京裁判をどのように扱ってきたのかをより深く理解する助けとなりました。このプログラムのおかげで、日本における東京裁判の記憶のあり方について貴重な洞察を得ることができました。

4. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

 靖国神社、昭和館、秋葉原の写真を紹介。	 日本での研究旅行の写真をいくつか紹介します。私の研究は、日本でどのように東京裁判が記憶されているのかを調査しているため、巣鴨拘置所の旧跡地、埼玉ピースミュージアム、そして東京裁判が実際に行われた市ヶ谷記念館を訪れることは非常に貴重な経験でした。次は広島、そして東京国立博物館を訪れた後、月曜日に研究成果を発表する予定です。
2024 年 12 月 15 日（Instagram）	2024 年 12 月 19 日（Instagram）

	Over the winter break, I had the incredible opportunity to take a research trip to Japan for my final MA graduation paper. On that trip, I visited a variety of public memory sites seeking to find references to, or indeed the absence of references to, the Tokyo Trial. While there, I got to see some amazing things and found quite a lot that will be useful as I start working on writing the final paper. The trip was generously funded by the America-Japan Society and the Ministry of Foreign Affairs's Kaihachhi program, which was administered for my program by JICE. I am incredibly grateful to have had the opportunity and sincerely hope that the trust placed in me as a researcher will not be in vain.
2024 年 12 月 23 日 (Instagram) 日本での研究旅行について最後の投稿です。写真は広島平和記念資料館、大和ミュージアム、海上自衛隊呉史料館、そして東京国立博物館で撮影したものです。これらを訪問した後、日米協会で研究発表を行いました。幸いにも、発表は非常に好評でした。	2025 年 1 月 21 日 (LinkedIn) 冬休み中に、修士論文のための研究旅行として日本を訪れる貴重な機会を得ました。この旅では、東京裁判に関する言及、あるいはその欠如を探るために、歴史的に価値のあるさまざまな公共施設を訪れました。現地では、素晴らしいものを目にし、修士論文の執筆に役立つ多くの発見がありました。このような機会を得られたことに心から感謝するとともに、研究者として寄せられた信頼に応えられるよう努めたいと思います。
	2024 年 12 月 23 日 (AJS の HP) 2024 年 12 月 23 日 (月) に VSJ (Visit And Study Japan) プログラムの研究発表が日米協会で開催されました。本プログラムの今年度選考された参加者は「記憶の中の東京裁判」というテーマで研究発表を行いました。発表では、滞在中に訪問した東京裁判に関連する史跡や資料を背景に、現在の日本人が持つ通常の理解から当該裁判が薄れていることを指摘し、新国家主義の企図の中に組み込まれることに対して警鐘を鳴らしました。米国に帰国後、今回の調査を基に分析をまとめ、来年 4 月には研究論文として発表する予定です。

5. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (抜粋)

- ・ 修士論文「公共の歴史における東京裁判」に写真や資料館の資料を使用します。(論文は 4 月までに完成し、日米協会に送付予定)
- ・ 東京裁判に関する日本の大衆メディアを翻訳し、論文に取り入れます。
- ・ 春学期中に大学で開催されるシンポジウムで論文を発表します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)

協力機関：一般社団法人日米協会 (AJS)